小平こども園　絵本だより
えほんのひろば
No. 11

令和２年
３月１９日（木）
平田村立小平こども園

絵本がつなぐ「記憶」



今年で９年目を迎えた「東日本大震災」…。今なお福島県では震災避難だけでなく、原発事故による避難生活を強いられている方々がたくさんおられます。家族や友人など大切な人を失った悲しみは、決して癒えることはありません。新しい生活や環境の中で、着実に復興に向けて歩みを進める今、あの震災を経験した大人達が震災を知らない子ども達に伝えていくべき「記憶」があるのではないかと感じます。



以前、小平こども園での「絵本サロン」でご紹介した震災関連絵本「ハナミズキのみち」。お家のみなさんからはたくさんの感想が寄せられ、震災の記憶を後世へ伝えていかなければならないという思いを改めて感じました。保護者の方からは、この絵本を購入されたというお話も聞かれました。３月１１日には、絵本タイムに子ども達とこの絵本を読み、震災の記憶を共有しながら子ども達とあの日に思いをはせました。



絵本がつなぐ震災の記憶だからこそ、子ども達に伝わりやすく心に響くものがある…。私達大人がその記憶をつなげていくことが大切なのかもしれませんね！

東日本大震災関連絵本を紹介します！

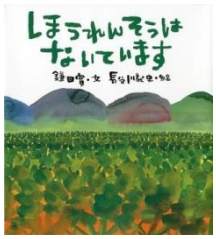
ここでご紹介する絵本は、家読推進プロジェクト代表の佐川二亮（さがわつぐすけ）さんが震災関連絵本としてご紹介している絵本です。震災を風化させないためにも、ぜひお家の皆さんとお子さんが一緒に読んでほしい絵本ばかりですので、子ども達と語り合いながら読んで頂けたら嬉しいです。



「ハナミズキのみち」
文：淺沼ミキ子/絵：黒井健
（金の星社）
ＮＨＫニュースウォッチ９で紹介された絵本です。わが子を津波で亡くした母の思いと復興へ向けた祈りを描いた一冊です。



「かぜのでんわ」
作絵：いもとようこ
（金の星社）
岩手県大槌町に実際にある電話ボックスのお話。震災で亡くしたあの人と話がしたい…。その切実な思いを描いた胸の熱くなる絵本です。



「ほうれんそうはないています」
文：鎌田實/絵：長谷川義史
（ポプラ社）
大きく育ってみんなに栄養を与えるために生長したホウレン草。突然目に見えないナニカに汚染され思いが断ち切られ…。放射能のことを知らない子ども達に語りかけます。



「なみだは　あふれるままに」
文：内田麟太郎/絵：神田瑞季
（ＰＨＰ研究）
震災後のショックで心を閉ざした少女の心象風景が描かれています。著者の二人の「あとがきに代えて」が印象的です。



「希望の木」
文：新井満/絵：山本二三
（東京法令出版）
岩手県陸前高田市にある「奇跡の一本松」を擬人化した物語。命の大切さを考えるヒントにもなるかもしれません。





みんなの家読

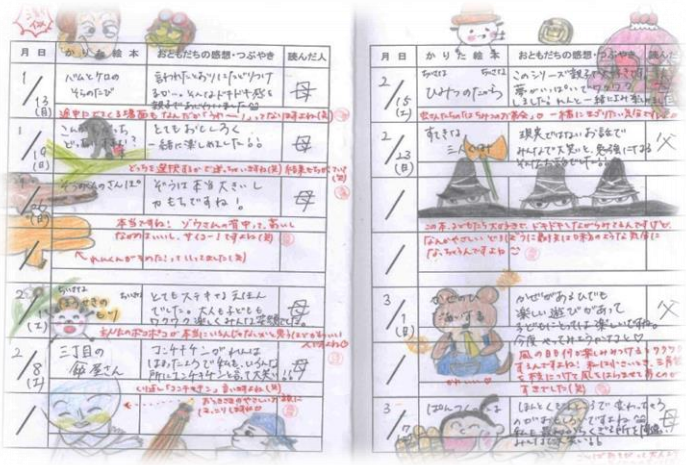


本年度も小平こども園では、家読を推進しご家庭でもご協力いただいてきました。週末の絵本の貸し出しのみならず、お家でのたくさんの読み聞かせを通して、子ども達は多くの絵本との出会い、そして何より家族でのコミュニケーションを楽しんできたことで、より心豊かに成長しました！先日配布いたしました「家族でうちどく宣言書！」は、先に行ったアンケート結果や子ども達の思いを反映して作成しました。ご家庭でこの「うちどく宣言書」を一緒に見て頂きながら、絵本が家族で一緒に過ごす癒しの時間になることを願っています！そして、感染症などで外出できない今だからこそ、「うちどく」を楽しんでいただけたらと思います！

うちどくの様子をちょっとのぞいてみよう！

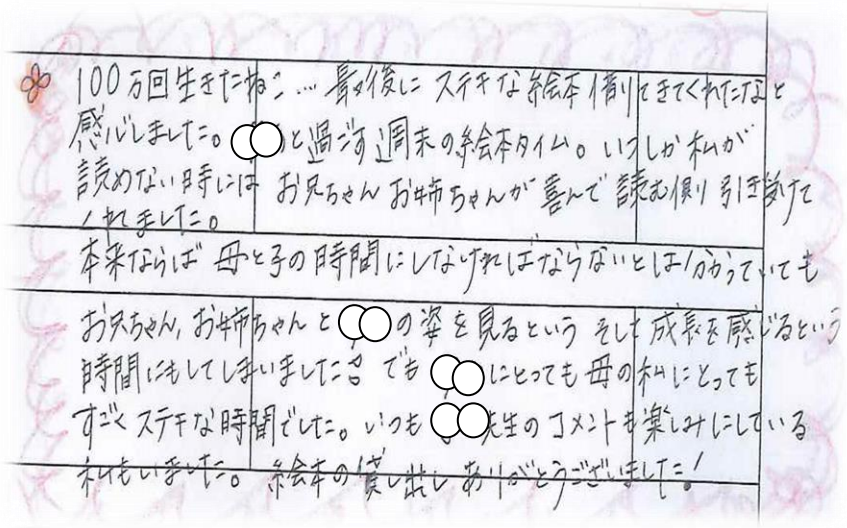


週末の絵本貸し出しで、お家の皆さんがお子さんのつぶやきなどを記録し続けたこの「絵本ノート」。５歳児クラスのＡ君の絵本ノートです。いつもお母さんが、絵本の表紙の絵を描き、Ａくんと楽しみながら感想を記入してくださいました。このノートからは、親子の触れ合いや語り合いが感じられ、見ている保育者も心が温まる思いでした。「いつも素敵な時間を過ごしておられますね！」とお話すると、「私も母にしてもらったんです！」と…。おばあちゃんからお母さんへ、お母さんからＡくんへと受け継がれてきた「うちどく」のひとコマに感動！こうして「うちどく」は家族の絆を深め、温かなぬくもりを築いていくのだと改めて感じました！



この絵本ノートは、Ａくんが親となりわが子に読み聞かせをする時に、きっと素敵な思い出として感動を呼び起こしてくれるに違いありません。





100万回生きたねこ…最後にステキな絵本作りできてくれたなと感じました。○○と過ごす週末の絵本タイム。いつしか私が読めない時にはお兄ちゃんお姉ちゃんが喜んで読み聞かせ引き継がれました。本来ならば母と子の時間にしなければならないとは分かっていてもお兄ちゃん、お姉ちゃんと○○の姿を見るという成長を感じる時間にもしてしまいました。でも○○にとっても母の私にとってもすごくステキな時間でした。いつも○○先生のコメントも楽しみにしている私もいました。絵本の貸し出しありがとうございました！

この絵本ノートは今年度最後の絵本貸し出し時に、最後に思いを綴ってくださったＢちゃんのお母さんのコメントです。週末の貸し出しを楽しみに待っていてくださったお母さん。親子だけてなく兄弟でのやりとりの中から、わが子の成長も感じ取っていただけたということ…。「うちどく」の時間を心から楽しみ絆を深めていく中で、わが子の成長にも気付けたというお母さん。これからもこの時間をきっと大切に過ごされていくのだと感じております！



うちどく.com

「うちどく」の情報は←こちらまで！

たくさん絵本をよんだね！

３月１３日（金）、今年度多くの絵本を楽しんできたお友達に、「多読賞」ならぬ「たくさん読んだで賞」を贈ることとなりました！５月からの週末絵本の貸し出しや、夏休みなどにお家の絵本や公民館から借りてきて読んだ絵本を合計し、より多くの絵本を読んできたお友達が、たんぽぽ組・すみれ組・さくら組から数名ずつ選ばれ賞が贈られました。賞を贈られたお友達はとても嬉しそうにしていて、誇らしげな表情で賞を受け取りました。これからもたくさんの絵本との出会いを待ちわびていることでしょう！

たんぽぽ組



よしだ　ゆうまくん	６５冊
はが　こうせいくん	３８冊
むらかみ　あいなさん	３６冊



すみれ組



ながやま　りりかさん	７３冊
よしだ　れんくん	４５冊
くまがい　このかさん	４２冊



さくら組



よしだ　たまみさん	７４冊
かとおの　ゆあさん	６２冊
ねもと　あかりさん	４９冊
おおぬま　みこさん	４９冊



たくさんの絵本との出会いをこれからも楽しんでくださいね！

今年度の読書活動を振り返って



今年度も保護者の皆様におかれましては、小平こども園の読書活動にたくさんのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。子ども達が「絵本大好き！」と言えるような環境作りに取組むとともに、保護者の皆様にも「うちどく」活動へ積極的に取組んでいただきましたことで、子ども達が「絵本って楽しいね！」と思える環境になってきていることを肌で感じております。来年度は村内こども園が統合になり、より読書活動も活発になっていくことと思います。「こころの栄養」ともいわれる読書という取組みを、ますますお家の皆さんと共有し、子ども達の心豊かな成長を心より願い、今年度の絵本だよりを終了いたします。本当にありがとうございました。